

「父なる神に栄光を帰し賛美する」

ピリピ2：9-11

堀田修一 21・11・7

I 常に先行的神の恵みを覚え、常に感謝したい！

神であるキリストは、私達を愛して、私達の救いの為に「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました」：6-8。「自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに…いやされたのです」（Iペテ2：24）。

II 「それゆえ神は、この方を高く上げて」：9。神は、最も低い所にまで、へりくだられたキリストを高く上げられた。

①キリストは、私達の罪の結果、罪の報酬である死に勝利され、三日目に復活された。

②キリストは、元々おられた天に昇られた。「罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の全能者（父なる神）の右の座に着かれました」（ヘブル1：3）。そこで、何をしておられるのか→「彼ら（旧約時代の祭司＝民に代わって神に近づく）の場合は、死ということがあるため、務めにいつまでもとどまることができず、大勢の者が祭司となりました。しかし、キリストは永遠に存在されるのであって、変わることはない祭司（神と人の仲介者。ヨブが大きな試練の中で見出した希望の仲介者）の務めを持っておられます。したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。キリストはいつも生きていて、彼ら（私達）のために、とりなし（私達の為の弁護、私達の祈りを神に取り次いで下さる）をしておられるからです」（ヘブル7：25）。※神は、へりくだる私達をも高くされる。「主の御前でへりくだり（自分の罪と弱さを真剣に認め、心から神に抛り頼み）なさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます」（ヤコブ4：10）。「高くして下さる」とは＝世的に地位が高くなるという意味ではなく、天からの雨が、地上で低い所、低い所に満ちるように、神の前にへりくだる者に神の恵みが授けられるという意味。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる」（ヤコブ4：6）。そして、主を信じ救われた私達は、地上で死を迎える時、私達の霊は、天に上げられ主にお会いできる。そして、天で、天使達と先に天に召された神の民と素晴らしい神を賛美し礼拝する。

3. 「すべての名にまさる名をお与えになりました」：9。

①「名」は、威厳、榮譽を示す。徹底的にへりくだられたキリストは、最高の榮譽の位置に置かれた。父なる神の右に座された。実は、神であるキリストは、天と地を創造される前から、御父、御聖霊との交わりを持たれ、神としての栄光を持っておられた。十字架にかかれる前の祈り「今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください」（ヨハネ17：5）。

②「主」という称号。新約聖書では、「主」いう称号は、専らイエス様を指して用いられる。これは、イエス様に与えられた最高の呼称。初代教会の信仰告白の中心は「イエスは主です」（ローマ10：9、「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません」Iコリ12：3）。旧約聖書の「主」（ヘブル語：ヤハウエ）が、新約聖書では、「主」（ギリシャ語：キュリオス）」とされている（ヘブル1：10）。旧約聖書の「主、ヤハウエ」とイエス様は、同一のお方。ヤハウエは御父、御子、御聖霊の三位一体の神。イエスが主であるとは、イエスが十字架で死に復活された救い主の神であり、主に、いっさいの権威が与えられているという事（マタイ28：19）。

- Ⅲ 偉大な神の恵みへの応答・神が大切に造られた、すべての被造物に求めておられ、喜ばれる事
→「それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、膝をかかめ（真にへりくだり）、すべての舌が、『イエス・キリストは主です』と告白して、父なる神に栄光を帰する（原語：賛美する、崇める、栄光を帰する）ためです」：10, 11。
「イエス・キリストは主である」と告白することは、父なる神に栄光を帰し神をほめたたえる事につながるという恵みの発見！1. まず、私たち自身が、神の驚くべき恵みを知り、信じ、「イエス・キリストは主である」と告白し、救われ、父なる神を心からほめたたえたい。神は、私達の信仰告白と神を心から礼拝し、ほめたたえることを、本当に喜ばれる。神をほめたたえる地上の教会の礼拝は、先に天に召されたキリスト者の天での教会（使徒信条の「共同の教会」）の礼拝は、つながっている。共同の教会の礼拝。大きな励まし！→「すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊（キリスト）の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。彼らは大声で叫んだ。『救いは、御座に着いておられる私たちの神と、小羊（キリスト）にある（私達は、天でも地でも、父なる神と子なる神、私達の罪の為にいけにえとなられた小羊なるキリストを礼拝する。聖霊なる神には、私達が御父と御子を礼拝するように導かれる）』御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生物（大天使）の周りに立っていたが、御座の前にひれ伏し、神を礼拝して言った。『アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、私たちの神に世々限りなくあるように。アーメン』黙示録7：9-12。地上の教会と天の教会（先に天に召されたキリスト者の集まり。地と天の教会が、使徒信条の「共同の教会」=キリストの体として繋がっている）の礼拝は繋がっている。これを思い礼拝すると喜びが倍増する。「また私は、天と地と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのもの（人間だけではなく、神が造られた全被造物）がこう言うのを聞いた。『御座に着いておられる方と小羊（キリスト）に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように』黙示録5：13。
2. すべての口が「イエス・キリストは主である」と告白するためには、すべての人に、一人でも多くの人に、イエス様の福音が伝えられる必要がある。私達に、主の福音を伝えてくれる人がいなかったら、私達は、今も主を知らないまま、信じないまま滅びに向かっていくことを忘れないようにしたい。また逆にそうではなく、主を伝えてくれる人を神が私達のもとに遣わして下さった恵みを心から心から感謝したい。
3. 神の摂理、ご支配の中にある私達の家族、親族、知人、友人は、ただの人々ではない。神が、私達を通して福音を伝えたい、知って欲しいと願っておられる大切な人々。「主は…ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改め（神に立ち返る）に進むことを望んでおられる

のです」Ⅱペテロ3：9。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも、あなたの家族も救われます」使徒16：31。福音を聞いてもらう為には、祈り（御聖霊の働き）と愛の関係、愛の実践が欠かせない。親族の本当の願いを飛び越えて、他人が主を伝えるのは難しい。まず私達自身が、神の愛と恵みの中に憩う事が必要。あせりや人の力では伝道はできない。主との深い交わりを通して私達の心に深い愛が生まれ、心から家族、知人の救いの為に祈る。他の人々にも祈っていただく。言葉で伝える前に愛を示させて（関係作り）下さいと祈りたい。御聖霊が心に働かれ、主を求める心が与えられるように祈る。愛を示しつつ祈り続けたい。「主は彼女の心を開いて、パウロの語る事に心を留めるようにされた。」使徒16：14。「絶えず祈りなさい」Ⅰテサ5：17。私達の分は、祈りつつ愛を示し、主を伝える事、祈り続ける事。その人が主を信じるかどうかは、神に委ねましょう。主を信じる人が増し、神を礼拝する人が増しますように！